

秋田
まちなか
作戦室

秋田まちなか作戦室
活動記録











メンバーコメント抜粋

自分の知らなかった活動、表現や創作の場に出会うことができ、秋田で過ごすことが楽しくなるようなものが既にたくさんあると知った。

今まであまり聞く機会のなかった多様な年齢層の方、事業者の方々、市役所の方々の考えを聞くことができ、知見が深まった。

秋田駅が、新しい価値観やつながりとお出会うことのできる場になったら面白いのではないかとこのイベントを通して考えた。

日程が合わずあまり参加できなかった。

今まで「まちづくり」というとある程度大きな、何かしらの主体によって主導されるもののように感じていたが、活動を通し、一人一人が行っている小さなことも「まちづくり」の一部であるという認識が変わった。

自分の意見をはっきりと示せる時間と空気に自然となっていて、自分と年代の違う方と同じ立場で気持ちや意見の交換ができた。

自分の中にはなかった視点や価値観からくる意見・提案に触れることができ、自分の世界を開けてくれる会でした。

まちを見る視点に「面白そう」とか「こういうことができそう」といったものが加わったように思う。また、まちなかで行われる催し物や取り組みについて自分でも調べるようになった。

最初はどういったプロジェクトなのか、分からず参加しましたが、その取り組み方がやっと分かってきました。

少しだけ街を見る視点が変わった気がします。

「何かやってみたいけれど踏み出せない人」に「誰かと一緒にやって何かに取り組み環境」が提供されることで大きな物事に挑戦することができると感じました。

秋田の余白を大切にしながら、消費だけでない居場所が駅前に作れると（素敵な、居心地のよい、穏やかな）もっと魅力的な町になるのかなと思いました。

『私も実は興味があつて』と周りの方から言われた事があり、一緒に参加した。誰かのきっかけになれていたと初めてそこで知りました。

プロジェクト関係者コメント抜粋

「つくる側」の視点しか持っていなかったのが、様々なモノやサービスを「うけとる側」の方の意見も聞いたことで、普段と違った視点を持つことができました。自分が体験した事を言語化したり地域の皆さんと会話する事で、活動に深みがあったり、可能性を無限に感じる事ができた。

(地域のクリエイター)

公共空間の活用の仕方を市民に提案していく中で、今後一緒に取り組めることがあるのではないかと思います。

(市役所職員)

普段の授業ではできないような、行政、NPO、市民が関わる活動ができた。行政、NPO、市民、と言われるもののうち、「市民」の意欲や知識、日々の活動、そしてそれらの豊かさで旺盛さをより具体的な人たちで知ることができ、自分が生きる街やコミュニティの姿がより立体的になった(同時に、その「市民」がやはりごく一部の人のことであろうことも感じた)。

(大学教員)

秋田駅は大人にとっても子どもにとっても最も集まりやすい場所だと思う。一方で、「何かやりたい」「秋田をよくしたい」と思っている人たちが自然に集まれる場は、これまであまりなかったように感じている。そうした中で、このような機会が設けられていることを嬉しく思った。

(地域のクリエイター)

行政は管理者という立場上どうしても実施側と意見が合わないこともある。それでも、対話を重ねていく中で、擦り合わせられる点はあるのではないかと感じている。

(市役所職員)

参加したイベントでは議論が活発に行われ、有意義な時間となりました。

一方で、自分たちの事業について、取り組みの背景や考え方を共有する時間があれば、より深い議論につながった可能性もあると感じています。

(JR 秋田支社職員)

秋田駅周辺が、新しい価値観やつながりと出会うことのできる場になったら面白いのではないかと参加を通して考えた。市の中心部を無理ににぎやかな場にするのではなく、おだやかで楽しい、「何か」をやっている、「誰か」と出会うなどの場にする事で、もっとつながりが増え、地域活性化にもつながっていくのではないかと考えた。

(地域のクリエイター)

みなさんのお話を伺って特に強く感じたのは、街をより良くしていこうという主体的な思いが非常に伝わってきたことです。一方で、行政には多くのルールがあるため、それらをどのように乗り越え、実現につなげていくかが今後の重要なポイントになると感じました。

(商工会議所職員)

秋田 まちなか 作戦室

目次





- 2 活動写真
- 12 秋田まちなか作戦室メンバー コメント
- 14 プロジェクト関係者コメント
- 17 実施概要
- 18 ごあいさつ

- 19 **1** 取り組みや活動者の取材・発信
 - 20 「第4回チャレンジマーケット」のレポートを作ろう
 - 24 「エキマエ、はじまる。さんど市」のレポートを作ろう
 - 28 「新しくなった佐竹史料館を見に行こう」

- 31 **2** まちなか空間の使い方を検討・提案
 - 32 秋田駅前の使い方を想像するミーティング vol.2
 - 34 まちなか活用アイデア
 - 36 第1回作戦会議
 - 38 「公共空間の利活用に関するワーキング(意見交換)」への参加
 - 40 駅前芝生広場の使い方を試そう

- 43 **3** 未来に役立つアーカイブづくり
 - 44 駅前エリアのマップを作ろう
 - 46 メンバー・スタッフコメント

各活動の参加者アイコン一覧

-  **取材者** … 第三者の立場から、インタビューや意見交換に参加
-  **主催者** … イベントを主催
-  **企画者** … イベントを企画
-  **参加者** … イベントに出店・参加

実施概要

秋田まちなか作戦室

期間	2025年9月～12月
活動拠点	秋田市文化創造館
活動エリア	秋田市中心市街地
参加費	無料

活動内容

秋田まちなか作戦室は、秋田市中心市街地にて開催される取り組みや活動者を取材し、その可能性を発信するとともに、まちなかのこれからを考え、提案・実践していくプロジェクトです。主な活動内容は3つ。

1. 取り組みや活動者の取材・発信

中心市街地で開催される市民参加型の取り組みやその担い手を取材し、活動紹介や取材レポートを制作・発信しました。

2. まちなか空間の使い方を検討・提案

中心市街地の公共空間の使い方について、専門家や市役所職員と共話し合い、企画の提案やまちなかでの実践を行いました。

3. 未来に役立つアーカイブづくり

活動の中で得た情報や気づきを記録・整理し、今後のまちづくりやまちなかでの活動に役立つマップとしてまとめました。

本プロジェクトでは、年齢や居住地を問わず、ともに活動するメンバーを広く募りました。学生から社会人、シニア世代まで多様な世代が集い、それぞれの視点や関心を持ち寄りながら、まちを歩き、対話し、活動を行いました。

主催	秋田市
企画・制作	NPO法人アーツセンターあきた
協賛	明治安田生命保険相互会社 秋田支社

※本事業は、秋田市「文化創造プロジェクト」の一環として実施しています。秋田市では「文化創造プロジェクト」を通して、芸術文化を切り口に市民が主体的にまちづくりに関わる活動を創出するためのソフト事業やネットワークづくりに取り組んでいます。

ごあいさつ

秋田市中心市街地・駅前エリアで行われる催しや文化活動の現場に足を運び、取材・発信・提案を行うプロジェクト「秋田まちなか作戦室」。

「秋田まちなか作戦室」のメンバーをはじめ、駅前エリアでお店を営む人々、表現活動を行うクリエイター、文化施設を運営する人、地域を研究する大学生、まちづくりを担う市役所や商工会、民間企業の方々など、様々な人たちと関わり合い、対話を重ねながら活動を行ってきました。

「まちづくり」と聞くと、一個人ではなかなか立ち入ることのできない大きな構造のように感じられ、関わりを持ちづらだけでなく、関わりたい気持ちも湧きにくい状況があるように思います。

このプロジェクトに「作戦室」という、少し「企み」を感じさせる名前をつけたのは、秋田に暮らす一人ひとりが、自身の暮らす場所や現在～未来という時間に対して、考えを持つこと、企てること、発言することを、誰かと繋がりながら前向きに捉えられたら、という思いからでした。

約4ヶ月間の活動の中では、関わった方々の等身大の思いや切実な願いが語られ、それを叶えるためのユニークなアイデアや提案が数多く生まれました。本書にはその積み重なるの一部分が記録されています。これを読んだあなたにも、未来が楽しみになる素敵な「作戦」が芽生えますように。

ようこそ、秋田まちなか作戦室へ！


2026年2月
NPO法人アーツセンターあきた コーディネーター
藤本 悠里子





「第4回チャレンジマーケット」のレポートをつくろう

日時 | 2025年10月4日(土)

会場 | 秋田市文化創造館

参加者 |  「まちなか作戦室」メンバー・スタッフ

 「チャレンジマーケット」担当スタッフ

 「チャレンジマーケット」出店者

9月21日(日)に秋田市文化創造館で開催されたイベント「第4回チャレンジマーケット」について、企画者や出店者、参加者など、さまざまな形で関わった人たちが集まり、当日の様子や感じたことを持ち寄りながらイベントの振り返りを行いました。

その結果、複数の視点が集まったレポートが完成しました。

レポートは
こちら



「チャレンジマーケット」とは？

子どもから大人までジャンルを問わず「秋田市文化創造館で実現してみたいこと」に挑戦できる機会として、2023年からスタートした企画です。毎回出店者を募集し、チャレンジの内容を審査して決定しています。

「普段と違うことが試せる」「ジャンルや経験値によらない交流が生まれる」「大人も子どもも良い意味でムキになれる」、そんな機会を目指し、企画・運営をしています。

Step.1 | 企画者のお話を聞く



勝谷俊樹さん
秋田市文化創造館コーディネーター

第4回目となる今回は、「文化創造館の空間の新しい使い方を試すこと」「あらためて『チャレンジ』を言語化してもらうこと」の2点を意識して取り組みました。

2階のスタジオA1をメイン会場としつつ、3階の回廊や屋外芝生エリアにも出店ブースを設け、来場者が館内を巡りながら楽しめる構成を目指しました。

出店応募用紙には「どんなチャレンジをするのか」を記入する項目を設け、実施後のアンケートでも「チャレンジを実現

するために行った工夫」や「出店を経て得られたこと」を記入してもらいました。出店者一人ひとりが「自分にとってのチャレンジ」を意識しながら取り組めるように工夫しました。

今回は、小学生から大人まで幅広い世代の参加がありました。開催を重ねるごとに参加者の層が少しずつ広がっていることを実感しています。

イベントの
詳細はこちら



Step.1 | 企画者のお話を聞く

Step.2 | 企画者・出店者・作戦室メンバーでの意見交換

企画者への質問



Q: 初めてのことに気軽にチャレンジができる環境・サポートがあることは嬉しい。出店者へのフォローはどのように行っていますか？



A: 貸出備品や搬入出などの不安な点がないか事前のヒアリングを行っています。
当日の出店者一人ひとりとの直接の会話も大事にしています。



Q: 出店者の「チャレンジ」の内容はどのようなものですか？



A: コツコツつくってきたものを初披露する方もいれば、物販の売上を上げたい方、活動を知ってもらいたい方や同じ興味関心がある友達を作りたい方など様々です。
出店を通してその人なりの「気づき」やつながりが得られるきっかけになればと考えています。



Q: イベントの存在を知らず、当日は遊びに行くことができませんでした。もっと広く周知されればと思います。

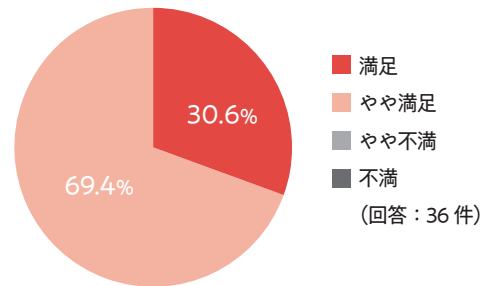


A: 広報のあり方は課題に感じています。駅前エリアから会場までの誘導や来場促進の工夫についても考えていきたいです。

出店者の声

「第4回チャレンジマーケット」出店者アンケートより抜粋

チャレンジマーケットに参加していかがでしたか。



満足している点

- イベント初出店で緊張していたが、お客様・出店者・スタッフが温かく、安心して参加できました。
- 他の出店者と交流し、良い刺激や自分の活動への意見をもらえました。
- 「〇〇できた!」の声の多さに、参加者にイベントの理念がちゃんと伝わっていることや今後の可能性を感じました。
- 「気軽に参加できる」ハードルの低さが良さだと感じています。

課題が残った点

- 出店料無料は魅力的だが、全体的に集客が足りないと感じました。
- 部屋の場所によって来客数や人の流れに差が出ていたように思います。
- 宣伝がSNS中心のため、まちなかなどリアルな場での広がりや十分ではないと感じられました。まちなかでの告知を強化することで、来場者の増加につながるのではないかと感じます。
- 休日のお堀端は人通りが多いため、周辺施設から来訪者が自然に流れてくるような導線をつくれれば、より良くなるのではないかと思います。

秋田で活動を行う上で、どのような支援や環境があると嬉しいですか。

- 異なる活動をしている人同士がゆるく繋がれる環境。
- 自分のできることを活かしながら、市や企業とコラボレーションして取り組むことができれば、より持続的に活動を続けられ、秋田にも貢献できるのではないかと感じています。
- 個人事業主や小規模事業者にとって、場所・宣伝・資金面での支援は大きな助けになります。「一度試してみる」機会をいただけるチャレンジマーケットのような場があることで、実際に地域のニーズを確かめながら改善できるのがとてもありがたいです。
- 制作を支える素材や流通といった基盤そのものが、表現する人たちの未来を形づくる大切な存在だと考えています。そのため、作家自身だけでなく、制作環境を支えている人たちにも目を向けていただき、応援してもらえたら嬉しいです。

Step.2 | 企画者・出店者・作戦室メンバーでの意見交換

Step.3 | 「チャレンジマーケット」が大切にすべきこと、工夫できるポイントを考える

大切にすべきこと

参加ハードルの低さ

- 出店者が「はじめての一步」を安心して踏み出せる場であること。

出店者の多様性

- 「チャレンジ」の内容や規模を問わず、多様な出店を受け入れる自由度の高いイベントであること。

参加者同士の交流

- 出店者や来場者の間に、互いを尊重し合う適度な距離感があり、安心して交流できる空気が生まれていた。
- 社会的立場や世代を超えて、幅広い人たちが出会い、交流できる場となっている。

互いを尊重し合う場づくりの実践

- 趣味や関心が異なる相手を尊重しながら、自分も楽しむバランスが特徴的。
- 出店者の主体性を尊重し、自ら考え・工夫することを促す運営の姿勢。

工夫できるポイント

出店・運営面でのサポート

- 出店者が安心して参加できるよう、事前ヒアリングや当日の声かけなど、フォロー体制を継続していく。
- 文化創造館の特性やネットワークを活かしたサポートをさらに充実させる。

広報・発信の工夫

- 情報発信の方法を見直し、「知らなかった」という声を減らしていく。
- 「チャレンジマーケット」に込めた理念や目指す姿を広く共有していくという視点から、広報活動を整理。
- 駅前エリアとの連携や、まちなかでの交流拠点づくりも意識していく。



Step.3 | 「チャレンジマーケット」が大切にすべきこと、工夫できるポイントを考える

エキマエ、はじまる。「さんど市」のレポートをつくろう

日時 | 2025年10月17日(金)

会場 | 秋田市文化創造館

参加者 | 「まちなか作戦室」メンバー・スタッフ

JR秋田支社職員

「さんど市」の企画を担当した秋田大学学生

「さんど市」出店者

レポートは
こちら



10月11日(土)に秋田駅西口駅前芝生広場で開催されたイベント「エキマエ、はじまる。さんど市」について、企画者や出店者、参加者など、さまざまな形で関わった人たちが集まり、当日の様子や感じたことを持ち寄りながらイベントの振り返りを行いました。その結果、複数の視点が集まったレポートが完成しました。

「エキマエ、はじまる。さんど市」とは？

秋田駅前エリアのにぎわい創出を目的として、JR東日本秋田支社が主催し、毎月第3土曜日に秋田駅西口駅前芝生広場を会場に開催されているイベントです。

JR東日本が設けた「さんど市」という枠組みのもと、月ごとにさまざまな地域事業者や団体と連携しながら展開されています。

2025年10月期は、秋田大学 地域文化学科に所属する学生たちが中心となり、大学のゼミ活動の一環として企画・運営を行いました。「読書・食・文化」をテーマに、移動図書館やキッチンカーの出店、芝生広場での過ごし方を提案する取り組みなど、秋の秋田駅周辺を楽しむための企画となりました。

Step.1 | 企画者のお話を聞く

丸子さん (秋田大学学生)



最近は季節を感じるような体験を自分から求めに行く人が少ないように感じていて、「秋を楽しもう」をテーマにしました。情報が自動的に入ってくる社会の中で、「自分から体験をしに行く」というきっかけを作るにはちょうどいいテーマだったのかなと思います。



もともと「芝生で本を読んでいる風景っていいよね」という話をしていたのが、この企画のきっかけでした。当日、寝転がったり、お弁当を食べたり、本を読んだりしている人がいて。普段はあまり見られない風景が生まれていて、芝生の活用という点でも手応えを感じました。

佐藤さん (秋田大学学生)



高橋さん (JR秋田支社職員)



「さんど市」は、地域の方々に芝生広場を活用してもらうためのきっかけづくりとして開催しています。「さんど市」以外の日にも、地域の方々や出店者さんが自主的にイベントを開いてくれるようになれば、少しずつ駅前ににぎわいが広がっていくと思います。広場の利用には特別なお金はかかりませんし、JRとしてもサポートしていきたいと考えています。

Step.1 | 企画者のお話を聞く

Step.2 | 出店者のお話を聞く

中央図書館明徳館

読書ブースの設置と青空おはなし会を実施しました。たくさんのご家族に絵本を読む時間を楽しんでいただけたようで良かったです。会場内に青空おはなし会をお知らせするポスター等があれば良かったと感じました。



TAYORe : SHOP

本屋としての出店は初めてでしたが、多くの方が足を止めてくれ、嬉しい驚きでした。実際売上も良かったです。駅前芝生エリアは使い方によって、とても可能性があるなと思いました。



きのうちふるぎ、

普段のお客様をはじめ、県内外各地の方とお話しすることができました。ぼろーどから「何かやっているな」と気づいて遊びに来てくれた方も多かったです。



Step.2 | 出店者のお話を聞く

Step.3 | 企画者・出店者・作戦室メンバーでの意見交換

室内イベントとは違い、風を感じながら自分の時間を深められる心地よさがありました。こういった雰囲気が、イベントの魅力につながっていたように思います。

(秋田大学 学生)



「何をやっているのか分かりにくい」と感じる場面もありました。通り掛かりの人にも伝わるようなサインや、視覚的に「見てわかる」仕掛けがあると、より立ち寄りやすくなると思います。
(作戦室メンバー)

イベント情報の届く範囲が限られていると感じます。チラシやSNSなどを通じて継続的に発信を行い、少しずつ認知を広げていくことも大切だと思いました。

(作戦室メンバー)



「さんど市」では、地域の人たちが自分たちで企画・運営していく段階へ移行していくことを理想としています。そのために、認知度の向上と、運営ノウハウを共有できる仕組みづくりが鍵になりそうです。
(JR秋田支社 職員)

駅前の一等地を自由に使えることは大きなチャンスであり、地域の人たちが主体的に関わることで、駅前という場所の新しい価値が生まれていると感じます。

(出店者)



ひとつの組織が牽引するよりも、いろんな人が関わり合いながら動いていく柔軟さに秋田らしさを感じられます。こうした関わりが継続して

いく中から、駅前に新しい風景が生まれていくのではないのでしょうか。

(作戦室メンバー)



Step.3 | 企画者・出店者・作戦室メンバーでの意見交換

Step.4 | 「さんど市」が大切にすべきこと、工夫できるポイントを考える

大切にすべきこと

親しみやすく、誰でも過ごしやすい雰囲気

- 屋外ならではの心地よさがイベントの魅力につながっている。

新しい出会いの創出

- 知らなかったお店や場所の魅力、駅前での過ごし方に気付き、出会う機会になっている。

誰もが関われる“ゆるやかな構造”が魅力

- 来場者、学生、出店者など、いろんな人が関われる余地のあるイベント設計になっている。

工夫できるポイント

心地よさとにぎわいの“共存”を生む設計

- にぎやかに過ごす人と静かに滞在する人、その両方が気持ちよく共存できる空間づくり。
- 季節やテーマによって、にぎやか/ゆっくり過ごせるを柔軟に切り替える

関わりやすさを広げる仕組み

- お店をやっている人、学生、住人が小さな企画で参加できる体制を整える。
- 運営ノウハウを共有し、自分たちでもやってみたいと思える環境を整備する。

見えやすく、入りやすい導線とサイン

- 駅前は多方向導線のため、どの方向からも入りやすい配置・入口の設計が大切。
- 「何をやっているのか」視覚的にわかるサインや旗を設置する。

継続的な発信と認知の積み重ね

- SNS・新聞・チラシなど多方面から継続的に情報発信し、認知を少しずつ広げる。
- 「毎月第3土曜」「誰でも参加できる」など、定期性と安心感を見せる。



Step.4 | 「さんど市」が大切にすべきこと、工夫できるポイントを考える

新しくなった佐竹史料館を見に行こう

日時 | 2025年11月23日(日)

会場 | 秋田市立佐竹史料館

参加者 | 「まちなか作戦室」メンバー・スタッフ

秋田市立佐竹史料館 学芸員

2025年10月25日(土)にリニューアルオープンした秋田市立佐竹史料館を訪問しました。当日は、学芸員の齊藤志帆子さんに館内をご案内いただき、リニューアル後の見どころや展示のポイントについて、ひとつひとつ丁寧に紹介していただきました。



齊藤志帆子さん
佐竹史料館 学芸員

佐竹史料館リニューアルオープンについて

秋田市立佐竹史料館は、平成2年の開館以来、佐竹家や秋田藩の歴史・文化に関する資料の収集や展示などを行ってまいりましたが、令和4年から休館して現地での建て替え工事を進めてまいりました。

令和7年10月25日にリニューアルオープンを迎えた佐竹史料館は、従来に比べ、建物の大きさや展示室の広さなどが大きくなり、より多くの所蔵品を展示できるようになりました。城下町の変遷を映像でたどるプロジェクションマッピングや、タッチパネル式の名品データベースなど、新しく導入したデジタルコンテンツも活用し、わかりやすく親しみやすい博物館となりました。

また、千秋公園を一望できる展望テラスやミュージアムショップも新たに併設し、千秋公園を中心とした歴史観光の拠点としてもお楽しみいただけます。

展示と空間から見る 佐竹史料館

リニューアル後の館内空間や展示を、メンバーのコメントでご紹介します。

○ プロジェクションマッピング



提供：秋田市立佐竹史料館

佐竹氏が長い年月をかけて作り出した久保田城城下町の、プロジェクションマッピング。発見されている地図史料が重なっていくことで、現在の秋田の町に至るまでを視覚的に分かりやすく知ることができます。(タキタレミ)

秋田市内の歴史を現在の街並みに照らし合わせてみることができ、時代の変遷をこの目でみることができました。(佐藤邦子)

○ 歴代藩主甲冑



提供：秋田市立佐竹史料館

甲冑を四方向から鑑賞できるガラスは低反射仕様のため、そこにガラスがあるとは思えないほどの透明感がありました。思わず手を伸ばせば、甲冑に触れられるのではないかと錯覚してしまうほどでした。(SEN)

会場内が広がったことで空間デザインも変わり、これまで正面からしか見られなかった展示物を、360度さまざまな角度から鑑賞できるようになったのが楽しかったです。(happy)

○ タッチパネル



提供：秋田市立佐竹史料館

「名品データベース」などが見られるタッチパネルがあり、ちょうど家族で来館していたお子様がタッチして見ていました。これは子供にも見やすくいいなと思いました。(ウエンディ)

街の様子や町人の表情が生き生きと映し出され、400年以上前の風景が身近に感じられました。(さわ)

○ 展望テラス



展示を見終えたあと、新設された千秋公園を一望できる展望テラスに足を運びました。とても開放的な空間で、展示で知った歴史について、景色を眺めながら思いを巡らせました。季節ごとに移ろう景色も、きっと素敵だろうと思います。(作戦室スタッフ)



今回の訪問を通して、まちなかと文化施設とのつながりや、秋田の歴史の奥行きを改めて感じることができました。リニューアルした佐竹史料館で、ぜひみなさんも展示を巡りながら、秋田の歴史やまちの魅力に触れてみてください。

メンバーによる見学レポート

メンバーそれぞれの視点でまとめた見学レポートにて新しくリニューアルした館内や、展示の見どころを詳しくご紹介しています。

レポートは
こちら



展示と空間から見る 佐竹史料館

2

まちなか空間の使い方を 検討・提案

中心市街地の公共空間の使い方について

専門家や市役所職員と共に話し合い


企画の提案やまちなかでの実践を行いました。

秋田駅前の使い方を想像するミーティング vol.2

日時 | 2025年8月24日(日)

会場 | あきたまちのえき夏(秋田駅ビルアルス地下1階)

参加者 |  イベント来場者

 駅前エリアにて企画・活動を行った方々

秋田まちなか作戦室の活動スタートに先駆けて、座談会「秋田駅前の使い方を想像するミーティング vol.2」を実施しました。

2025年度の夏、秋田駅前エリアにて企画・活動を行った企画者や運営者による事例紹介や、来場者の方々から寄せられた「まちの活用アイデア」を手がかりに、今よりもっと楽しみな駅前の未来像を一緒に想像し、意見交換を行いました。

レポートは
こちら



秋田駅前エリアで開催された取り組みの事例紹介

○ 民具ラボ

日時 | 2025年8月4日(月) ~ 24日(日)

場所 | 秋田市文化創造館、明德館ビル1階、あきたまちのえき夏会場内



NPO法人アミツセンターあきた
スタッフ
「民具ラボ」主催

秋田市在住の蒐集家・油谷満夫さんが集めた民具を分類・整理・記録し、今後の活用方法を検証する取り組みとして開催しました。文化創造館、明德館ビル、あきたまちのえき夏の3会場で展示や「油谷さんと話す会」を実施。民具に関心のない来場者との新たな出会いも生まれ、地域にある財産をどう活かしていくかを考える機会となりました。

○ 言葉と体

日時 | 2025年8月9日(土) ~ 8月30日(土)

場所 | 秋田市旭川沿い各所



加賀谷 葵さん
「言葉と体」実行委員、ダンサー

ギャラリー・ココラボラトリー 20周年を記念したプロジェクトです。秋田市の旭川沿いの街を舞台に、複数のアーティストが公演、展示、活版印刷のワークショップ、流しのパフォーマンス、トークなど8つの企画を展開しました。旭川の流れて着想を得て、街に脈々と引き継がれている人や場所の営みを巡りながら楽しめる企画を目指しました。

○ ミネバネ！現代アート タグチアートコレクション

日時 | 2025年7月19日(土) ~ 9月7日(日)

場所 | 秋田市立千秋美術館、秋田県立美術館



菅沼 楓さん
「ミネバネ展」
秋田市立千秋美術館 学芸員

実業家・田口弘氏と娘の美和氏が収集した現代アートコレクションを、秋田市立千秋美術館と秋田県立美術館の2会場で展示しました。104点の作品紹介に加え、街中10箇所での野外展示やプロジェクションマッピング、作家によるワークショップも実施。街を巡りながらアートに触れられる企画となり、若い来場者も多く、市内の店舗や施設との連携にもつながりました。

○ たまご遊園地夏祭り

日時 | 2025年8月16日(土)

場所 | 秋田市中通三丁目街区公園



佐々木 泰作さん
中野敦史さん
「たまご遊園地夏祭り」実行委員

「たまご公園」と呼ばれる中通三丁目街区公園を会場にした夏祭りです。2013年に地域の同世代の経営者たちが「何かやりたい」と企画したことをきっかけに始まり、町内会の協力も得ながら続いてきました。出店は外部に頼らず自分たちで屋台や盆踊りを企画。子どもから大人まで気軽に参加できる地域のお祭りとして親しまれ、若い世代も運営に関わるようになってきました。

○ あきたまちのえき夏

日時 | 2025年7月19日(土) ~ 8月24日(日)

場所 | 秋田駅ビルアルス地下1階



市民団体・trunk
「あきたまちのえき夏」運営

「つくる・みせる・あそぶ」をテーマに、秋田駅ビルアルス地下1階で開催しました。県内のアーティストや職人、料理人、学生、起業家など前後半あわせて27組が参加し、多様なブースが集まりました。出店者や美大生、企業、館内店舗との交流から新たなコラボも生まれ、「何かやりたい人が集まる場」「ゆとりをもって過ごせる場」としての可能性が見えてきました。

秋田駅前エリアで開催された取り組みの事例紹介

秋田駅前の未来についての座談会

第2部の座談会では、駅前エリアの未来について登壇者と参加者のあいだで多様な意見が交わされました。



参加者

活動を通じてコミュニティが元気になっていくには、やっぱり楽しみながら続けることが大事だと感じました。そうすることで、年齢に関係なく、周りの人も自然と関わられるようになると思います。



参加者

「まちのえき夏」での出店ブースでは、子どもたちに街の地図の上に建物を置いてもらう取り組みを行いました。花を置く子が多かったのが印象的でした。子どもたちは言葉にしばらくても、「こんな街がいい」というイメージをたくさん持っていると感じました。そうした思いをすくい上げる場が大切だと思います。



参加者

今日の皆さんのお話を通して、「無理しない」という点がとても大事だと感じました。ものごとを続けるかどうかはそれぞれですが、やるなら日々のしんどさは少ないほうがいい。楽しみながら続けるという姿勢が、皆さんに共通していたと思います。



参加者

街づくりは、言葉をうまく使える人だけのものではないですよね。子どもを含め、さまざまな立場の人が関われるほうがいい。そうした声に気づくことが、大人にとっての発見や共感にもつながるのだと思います。



参加者

普段は秋田市役所で中心市街地の活性化に関わっていますが、今日は一参加者として参加しました。地域を自分たちで良くしていこうという思いが伝わる一方で、行政の制度とのギャップをどう埋めるかが、今後の課題だと感じました。



参加者

立場の違いを超えて顔を合わせて話せる関係があること自体が、このエリアの強みだと思います。支え合いながら、無理のない形を楽しんで考えられる土壌が、すでにあると感じました。



秋田駅前の未来についての座談会

秋田駅前の空きスペース活用アイデア

秋田駅前の空きスペース5か所を活用するためのアイデアを、掲示板に自由に書き込んでもらう形で募集しました。秋田駅前を利用する皆さんから寄せられたアイデアの一部をご紹介します。

西側ポケットパーク



- 朝市!! 野菜販売してほしい。
- 防災拠点
- 屋外ミニシアター
- テントサウナ
- 店舗を持たずに小商いをしている人たちのポップアップ集合イベント
- 文化創造館、ミルハス、AUでやっていることを拡張できるような場所にする。音楽コンサートを開催しているときに、音楽の演奏ができる場にするとか?
- 市民ランナーの憩いの場、ちょっとしたトレーニング器具などを設置。
- にぎやかでなくとも、常に何かをやっているような空間があると面白い。



にぎわい広場 植栽スペース



- 人形道祖神を置きたい。
- 植物や花が話しかけてくると楽しい。(デジタル×アート?)
- ドッグラン
- 平日限定で飲食ブースや販売ブースを無料で出店できるようにする。
- ミルハスに来ているアーティストの音楽、MVをその日流す!!絶対うれしい!



仲小路



- 巡り傘*に日傘を加えて欲しい!
- 長い一本道を活かしたスケボーコンテスト、ファッションショーランウェイ!
- ドッグランと犬好きの集いの場
- 給水コーナーもあるといいなー。
- お酒が飲めなくてもワイワイたのしめるイベントがほしい。
- マルシェの定期開催

※仲小路振興会が仲小路商店街会員店舗に設置している、まちを巡りながら利用できる無料の貸し傘。

秋田駅前歩道



- 大きなベンチを置いてみる! (円形)
- 自転車置き場
- 共同の畑
- 暑さを和らげ、熱を吸収できる歩道。
- かまくらをドーンと!一度入って見たい人いるはず!
- 大型の液晶パネルを復活させてほしい!(昔緑屋ビルに設置されていたもの)
- 駅前から「歩いて回れる範囲」のマップを掲示する。
- 秋田駅に降り立った人を迎えるために、花でいっぱいになりたい。花時計もいいかも。
- 「何もしなくてもいい場所」があるとうれしい(のんびりできる場所がほしい)



東側ポケットパーク




- 焚き火スポットが欲しい。
- この場所からの眺めが、時代ごとにどう変わってきたか見たい。
- 店舗を持たずに小商いをしている人たちのポップアップ集合イベント
- 防災拠点
- ファーマーズマーケット、朝市
- 休憩スポットをお知らせする掲示板を設置する。飲食店ではなく、ベンチとか、公園とか、ハーモニープラザ(アトリオン内)とか、フォンテ6階とか…。
- くつろげてコミュニケーションが生まれる仕組みがほしい(イス、テーブル、日除け、雨宿りなど)。

作戦会議：駅前の公共空間の使い方を提案する

日時 | 2025年9月15日(月・祝)

会場 | 秋田市文化創造館

参加者 |  「まちなか作戦室」メンバー・スタッフ

「秋田駅前の使い方を考えるミーティングvol.2」の内容や、秋田駅前を利用する皆さんから寄せられた駅前の空きスペース活用のアイデアをもとに、駅前の公共空間の使い方について意見を整理し、「公共空間の利活用に関するワーキング」で提案する実践プランの検討を行いました。また、『エキマエ、はじまる。「さんど市」』で実施する試行的な取り組みのアイデア出しも行いました。



ディスカッションで出た声

駅前の公共空間の使い方について、参加メンバーからは、ルールの伝え方、場の性格、情報発信の仕方、時間の使い方など、さまざまな視点の意見が寄せられました。

目的のある場／フリーな場

- イベントなど“目的のある場”と、何もせずに過ごせる“フリーな場”の両方が必要だと思います。
- すべての場所がにぎわってなくてもよくて、静かに過ごせる場を求めている人もいそうです。
- にぎわいか静けさか、必要な空間は人によって違うと思います。お店や商いをしている人は、“にぎわっていてほしい”と感じることも多いのではないのでしょうか。

ルールの伝え方

- 駅前の野外スペースは、何をしたい場所なのか分かりにくいです。“立ち止まって過ごしてはいけない”ような印象があります。
- 知らないうちに“暗黙のルール”が生まれてしまっている気がします。“察する”よりも、分かりやすく示すほうが安心できます。
- ポジティブなサインで、“できること”を明らかにするのはとても大事。“〇〇していい”と前向きに伝えるサインがあるだけで、使いやすくなると思います。

情報・掲示の工夫

- 掲示板があれば、イベントや地域の情報を共有できて、まちの“今”が見えるようになると思います。
- 自分たちがPRしたい活動やイベントの情報を、市民自身が掲示できる仕組みがあると思います。市民が“使う人”だけでなく、“伝える人”にもなれると、まちとの関わりがより深まると感じます。

交通・待ち時間の視点

- 駅前は、特に冬は電車やバス、自転車で行くにも少し大変に感じます。待ち時間を快適に過ごせる場所が、もっとあると助かります。
- 空間だけでなく、“待ち時間をどう過ごすか”という視点でも考えてみたいです。

道具・空間のしつらえ

- 最近、駅前のお店のガラスに美術作品が展示されていて、まちの中で気軽に芸術に触れられるのが良かったです。日常の延長で文化に出会えるといいですね。
- 体を動かしたり、おしゃべりしたり、芝生広場を“公園”のように使えと、過ごし方の選択肢が広がりそうです。
- 芝生広場に動かせるベンチや敷物など簡単な道具があるだけで、“使ってみよう”という気持ちが生まれると思います。



⇒ 話し合いから見えてきたこと

こうした意見から、

- 目的のある場と、自由に過ごせる場の両立
- 「何をしたい場所か」を分かりやすく伝えること
- 日常の中で、気軽に文化や人と出会える空間

といった視点が浮かび上がってきました。

これらのポイントをもとに、「秋田駅前の公共空間の使い方」についての考え方と具体的なアクション案としてまとめ、「公共空間の利活用に関するワーキング」での発表に向けて整理しました。

ディスカッションで出た声

「公共空間の利活用に関するワーキング（意見交換）」への参加

日時 | 2025年9月19日（金）

会場 | 秋田市文化創造館

参加者 | 「まちなか作戦室」メンバー・スタッフ

AKITA “KARA” メンバー、秋田市役所職員

秋田商工会議所職員

秋田市中心市街地活性化協議会が主催する、秋田駅前エリアの公共空間の活用について検討する会議に参加し、秋田駅前を利用する皆さんから寄せられた空間活用のアイデアや「まちなか作戦室」メンバーが考案した活用実践プランについてのプレゼンテーションを行いました。また、発表後には市役所や商工会議所の皆さん、秋田市を拠点に活動するコミュニティ団体「AKITA “KARA”」のメンバーの皆さんと意見交換を行いました。

秋田まちなか作戦室の発表内容

地域の声から考える「秋田駅前の公共空間の使い方」



Step.1 | 地域の声から見えてきた3つの視点

①空間の使い方

- ・「イベントのときだけでなく、普段からふらっと使える場所がほしい」
- ・「何かを買わなくても、ただ座ったり休んだりできる空間があるといい」
- ・「目的が決まっていなくても、居ていい場所がほしい」
- ・「新しい施設をつくるより、今ある場所をうまく使ってほしい」

→ 見えてきた視点

- にぎわいづくりだけでなく、日常的に使われる公共空間へのニーズ
- 目的や対象を限定しない居場所の必要性

②情報の可視化

- ・「何をしたい場所なのかが分からないから、なんとなく通り過ぎてしまう」
- ・「飲食していいのか、立ち止まっていいのか迷う」
- ・「使える場所やルールが、ぱっと見て分かる助かる」
- ・「公共空間や取り組みの存在自体があまり知られていない」

→ 見えてきた視点

- 公共空間の使い方やルールが見えにくいことへの戸惑い
- 「〇〇していい」が分かる情報提示の必要性

③文化芸術とまちのつながり

- ・「街中で文化に触れられると嬉しい」
- ・「日常の延長で立ち寄れるような催しがあるといい」
- ・「にぎやかすぎる場が苦手でも、居心地よく過ごせる工夫がほしい」
- ・「アートや音楽を“楽しみに行く”というより、たまたま出会いたい」

→ 見えてきた視点

- 文化芸術を「特別なもの」ではなく、日常の延長として楽しみたいという期待
- 多様な人が心地よく参加できる場へのニーズ

Step.1 | 地域の声から見えてきた3つの視点

Step.2 | 短期・中長期のアクション提案

寄せられた意見をもとに、提案を【短期で実行可能なこと】と【中長期で検討が必要なこと】の2つに整理しました。

短期で実行可能なこと

- ・椅子・テーブル・ゴザなど、さまざまな過ごし方を誘発する道具の設置・貸し出し
- ・「飲食OK」「撮影OK」など、使い方を前向きに伝えるポジティブサインの掲示
- ・実際に駅前で過ごし方を試す、小規模なイベントや実践の実施
- ・駅前を利用する人の声や過ごし方を共有する掲示板の設置

中長期で検討が必要なこと

- ・市民が文化活動や交流、休息のために日常的に利用できる公共空間の整備
- ・「移動の待ち時間」を過ごす人に向けた、一時的に滞在・交流できる場づくりの検討
- ・公共空間の場所や利用ルールを、分かりやすく伝える仕組みの構築
- ・市民の意見を継続的に集め、まちづくりに反映していく仕組みづくり

○発表後の意見交換

「秋田駅前の公共空間の使い方」について、公共空間を管理する人と利用する人、それぞれの立場から、プレゼンテーションについての感想や、日頃感じている課題について話し合いました。

その中で、地域のみなさんの声から見えてきた視点や提案は、会議の場で共有するだけでなく、実際に駅前の空間を使いながら試してみることが大切だという考えに至りました。そこで、秋田駅西口駅前広場で毎月開催されている「エキマエ、はじまる。さんど市」に参加し、駅前で過ごし方や使われ方をイメージしながら、「短期で実行可能な」プランを実際に試してみることにしました。



Step.2 | 短期・中長期のアクション提案

駅前芝生広場の使い方を試そう

日時 | 2025年10月11日(土)

会場 | 秋田駅西口駅前広場(芝生広場)

参加者 | 「まちなか作戦室」メンバー・スタッフ

秋田駅前芝生広場で行われた「エキマエ、はじまる。さんど市」に参加し、「秋田駅前の公共空間の使い方」について集まった声やアイデアをヒントに、駅前での新しい過ごし方を実際に試してみました。

「まちなか作戦室」メンバーの実践

「まちなかOKサイン」の設置

「禁止」ではなく「やっぴいこと」を示す「まちなかOKサイン」を会場内に設置しました。

掲示された内容を手がかりに、来場者それぞれが主体的に場と関わり、空間の使い方に広がりがありました。



ゴザ・椅子の設置

来場者が気軽に場に留まれるよう、会場内各所にゴザやキャンプ椅子を設置しました。

さんど市で購入した食べ物を味わったり、会場内で貸し出しされている本を読んだり、腰を落ち着けて過ごす時間に活用されていました。



秋田駅前の空き時間の過ごし方意見募集

秋田駅前での「空き時間」の過ごし方について、来場者の声を集める意見募集ボードを設置しました。日常的な過ごし方から新しいアイデアまで、さまざまな視点の意見が寄せられました。



秋田駅前ウォーキングリサーチ

作戦室メンバーの発案により急遽開催。2グループに分かれ、秋田駅の西側と東側を実際に歩きながらおすすめの散歩コースや見つけたものを記録し、共有しました。



「まちなか作戦室」メンバーの実践

メンバーの感想

1 印象に残ったこと・場面を教えてください。

- 参加している人が自由に過ごすことができている印象を受けた。ゆったりした雰囲気の中で友達や他のメンバーと話すことが出来て、いい意味でいつもの秋田駅の使い方とは違って、新鮮で楽しいと感じている人が多かった印象を受けた。
- 店舗やブースの人々と、立場を超えて自然なコミュニケーションを取り世間話をする事が出来た。
- 友人と一緒に他の出店をみて周り、本を読んだり、食べ物を食べたり、遊んだりできて、久しぶりにこんな風に外で楽しむことができたと感じた。忘れていた屋外での楽しみ方を思い出せたような気がした。
- 作戦室メンバーの呼びかけにより、チームに別れてイベント内イベント(駅前ウォーキングリサーチ)が行われたことが印象的だった。
- 「体操OK」のサインのもと、ずっと芝生広場で跳ってみたかったという子が、思いきり体を動かして跳ってくれたことが印象的だった。



2 当日の会場の雰囲気や、広場の使われ方についてどんな印象を持ちましたか？

- 普段空いているスペースに出店ブースがあることで、空間を有効活用できているだけでなく、人々との会話や交流が自然と生まれる場となっていた。
- 「さんど市」というイベントを開催しているイメージ訴求が弱いと感じた。
- 雰囲気はゆったりしていてよかった。お店の並び、位置によって、やや閑散としている印象もあったので、並びや位置は工夫の余地があるように感じた。
- にぎやかなのに穏やかな雰囲気で、人々が居やすいと感じた。固定された楽しみ方がない自由さが良かったのだと思う。

3 実践を通じて、どんな気づきや発見がありましたか？

- 普段あまり使われないスペースも使い道によって人を集めたり有効活用することが可能になるということ
- 芝生広場は案外通りかかる人が多く、何か催しをやっていると気になって来てくれる人もいる。定期的にイベントをやることは賑わいの創出になって良いのではないかと感じた。
- ゴザの持つ力は強いと感じた。キャンプ椅子も自由に使う人が予想以上に多いのだなと思った。
- 備え付けのベンチを使い、会場を俯瞰して観察してみた。意識しないと気づかない場所や感情がいくつもあった。

4 課題や、改善が必要と感じた点を教えてください。

- 「さんど市」というイベントが行われていることが、分かりにくい印象を受けた。
- 実際に会場に足を運び、近くまで行かないと開催に気づきにくい。フラッグの設置など、来場者を自然に誘導できる工夫があると、より親切になると感じた。
- 会場のレイアウトは出店者の売上にも関わる要素であり、改めてその重要性を感じた。

5 今後、駅前広場やまちなかの公共空間をどのように使っていけたらよいと思いますか？

- 芝生広場は人々がただ通るだけのスペースとしては広すぎるし勿体ないため、常にではなくともこうやって賑やかに過ごせる機会が増えていったら良いだろうと思う。
- 特定の目的に奉仕する「分かりやすい」施設を建てるよりも、目的がはっきりとせず「持て余している」方が望ましいと思った。
- 派手ではなく「普通」に使われるためには、まずはその場所を意識・再認識する機会が必要かなと感じた。今回のような公共空間を再認識するイベントがあればまた参加したい。
- 今回のように、ふらっと立ち寄った人が自然に交流することも、ただ買い物をしたり通り過ぎることも出来るような快適なスペースとして使えたらいいのではないかな。



メンバーの感想

3


未来に役立つ アーカイブづくり

活動の中で得た情報や気づきを記録・整理し
今後のまちづくりやまちなかでの活動に役立つ
マップとしてまとめました。

駅前エリアのマップを作ろう

日時 | 2025年11月8日(土)、12月6日(土)

会場 | 秋田市文化創造館、にぎわい交流館AU

参加者 |  「まちなか作戦室」メンバー・スタッフ

これまでの取材や実践を通して得た情報を活用し、今後に役立つ駅前エリアのマップづくりに向けたアイデア出しを行いました。そのアイデアをもとに、まちなかで活動する人が「駅前エリアにあるもの」「使えるもの」「できること」を書き込みながら自由にカスタマイズできる「まちなかOKマップ」を考案しました。

どんなマップがあったらよい？

- 「久保田城址歴史案内ボランティアの会」に参加しています。海外からの方はラーメン屋やハンバーガー屋はどこかとよく聞かれます。案内する私たちが持っていることで安心できるようなマップだと嬉しいです。
- ベンチやゴミ箱、多目的トイレや授乳室、具合が悪くなった時に休める場所、お弁当や持ち込み飲食ができる場所の情報がまとまっていると助かります。災害時にも役立つかもしれません。
- 観光系の居酒屋情報は多いですが、女性が一人でご飯を食べられる場所も知りたいです。
- まちのあれこれを知っているマスターがいる店が分かれば、おすすめの店や人を紹介してもらえそう。まちに出かける時に「人に会いに行く」目的が持てるようになると素敵です。
- お気に入りのフォトスポットや穴場スポット、お散歩コースを投稿できる地図ウェブサイトがあったら面白そう！



- 駐輪場やバス停、タクシー乗り場、時刻表などがまとまっていれば、車を持たない人もアクセスしやすく、待ち時間の過ごし方もデザインできると思います。

- 昼呑みができるスポットが知りたいです。

- 10月のさんど市で提案した、禁止事項じゃなくてできることを示す「OKサイン」が良かったので、マップも「〇〇してOK!」というまとめ方が良いのでは？
- 行きたい場所や知り合いがいる場所に印をつけたり、行った日のコメントを書き加えたり、自分でカスタマイズできるマップはどうでしょう？

どんな人が使う、どんな形のマップをつくる？

- 高校で国際文化を勉強しています。多言語対応や多様な宗教に対応した情報、やさしい日本語が使われているなど、多様な人への配慮が必要だと思います。
- 街中に無料で過ごせる場所があることは、地元の人にとっても観光の人にも街中で過ごす入り口になるのでは。無料で楽しめる施設や場所の情報はあった方がよいと思います。



- 街中で活動したい人は、使える場所や「音を出してOK」「踊ってOK」が書き込めるマップだと役立つのでは？
- 観光客の人にとっては、日本酒の角打ちや竿燈が常設されている場所など、秋田の文化に触れられる場所がわかると良いと思います。さらに地元の人と交わるきっかけにもなれば！

- 昔はどの家の前にも長イスが置いてあって、偶然の出会いがよく生まれていました。街中のそういう場所が示されると良いと思います。
- 地元の人にとっては「テイクアウトOK」「休憩OK」「ペットOK」、季節の花や散歩に役立つ情報などが嬉しいのでは。イラストで示されていると分かりやすいと思います。



作戦室メンバーによる話し合いを経て、まちなかで「できること／やってみたいこと」を自由に書き込める「OKマップ」を作成しました。この冊子の付録として、同封しています。

メンバーとスタッフが秋田市文化創造館のリソグラフ印刷機を使って印刷し完成させた、風合いのあるマップに仕上がっています。

ぜひあなたの気づいたまちの情報やお気に入りの場所、行ってみたいスポットを書き込みながら、このマップを育ててみてください。

メンバーコメント（これからの作戦室について）

プロジェクト担当職員コメント

参加を通じて、今後の活動やご自身の関わりの中で 活かそうだと感じたことを教えてください。

- 「まちづくり」の参加へのハードルが低くなったことが大きいです。一般市民の意見をここまで丁寧に聞いてくれる機会は少なく、秋田市が市民を大事に思ってくれていると感じました。個人としても、秋田を盛り上げるためにどんどん活動していこうというやる気に繋がりました。
- 自分が関わった場所がこれからどう変わっていくのか、見守っていききたい。
- 近所でも、公園でもふらっと歩いてみる事です。そこには今まで気づかなかった新しい発見があるかもしれないし、もしかしたら後に出逢う人と何か一緒に仕事をするかもしれないし。「かもしれない」の可能性を広げていきたい。
- 普段何か活動をしているわけではないので具体的にこうだと言えないけど、少し自分の中の意識が変わったことは感じています。その積み重ねなのかもしれません。
- 街で行われる心理的にハードルの高いイベントの背景に触れて、今後はより気軽にかつ積極的に関わられるのではないかと感じた。
- 将来公務員になりたいと考えているが、他の職業に就いたとしても秋田市のまちづくりなどに積極的にかかわりながら生きていきたいと思うようになった。その時、このまちなか作戦室で見つけた秋田の魅力なども思い出し、学びを繋げていきたいと考えている。

「秋田まちなか作戦室」として

今後どんな活動を行いたい／行うとよいと思いますか。

- いろいろな人に話を聞きに行く活動。もっといろいろな意見を聞く必要がある気がしました。
- 参加者に若年層が少ない印象だったので、市内に大学が複数あることを活かしたような活動。
- 市や市長などと協力し、もっとメディアやSNSで活動の様子を広めていくと良いと思う。
- 駅前で実施したような実践があれば参加したい。
- 今度は作戦室メンバーが企画者となり、イベントを企画する。
- ご高齢の方が若者にできることと、若者がご高齢の方にできることをまちづくりや文化・芸術の視点から組み合わせることで秋田のためになることが企画・実現できたら面白いと思います。
- 事業者の方々や市役所の方々と意見交換ができる機会は今後もあれば良いと思う。

事業の主催者として、同時に一市民、時にはイベントの一出店者として、作戦室を見てきました。メンバーの年齢・性別・肩書きはさまざまで、活動への関わり方も人それぞれでしたが、全員、まちに対する好奇心があったように感じます。

メンバーの皆さんとまちについて話す時間を共有できたことは、大変貴重な経験であり、一人ひとりの言葉や感性が、秋田の日常を形づくっていることを実感できました。

駅前エリアの使い方については、市民から集まった意見の分析結果が非常に参考になりました。

また、関係者を巻き込みつつ、中心市街地のイベントの中でアイデアを実践することによって、メンバー自身が新たな気付きを得ただけでなく、多くの人に、「まちの過ごし方」を考えるきっかけを与えられたのではないかと思います。



秋田市役所 企画調整課 / 西村 知美

秋田という土地で、立場や属性を問わず、「まち」（誰もが自分ごととして捉えられるもの）について語り合える機会をつくれたことには、大きな意義があったと感じています。

なにかを「実際にやっている人」だけでなく、支えたいと考える人、手を動かすことはできなくても意見や関心を持つ人など、さまざまな立場の人が関わられた点にも、この場ならではの価値があったと思います。

秋田は、一度つながりが生まれると関係が広がりやすい一方で、家や学校、職場といった日常の枠を越えた居場所や接点を見つけるには、意識的な行動が求められる土地でもと感じています。

そうした中で、「まち」という共通の土台を介して、立場の異なる人同士が自然に言葉を交わせる機会は、新たな視点や選択肢に触れるための貴重なきっかけになっていたように感じました。

また、まちで行われてきた取り組みを「やって終わり」にせず、その過程で見えてきた出来事や変化を振り返り、言葉にする時間を持たせたことも重要だったと感じています。実践と振り返りを併せて行うこうした試みは、これまでの秋田ではあまり多くなかったのではないのでしょうか。

運営スタッフとしてプロジェクトに伴走した経験、また一市民として多くの人と対話を重ねられた時間は、今後の自分にとっても大切な財産です。



NPO法人アーツセンターあきた コーディネーター / 小野地 瞳

秋田まちなか作戦室

期間 2025年9月～12月
活動拠点 秋田市文化創造館
活動エリア 秋田市中心市街地
主催 秋田市
企画・制作 NPO法人アーツセンターあきた
協賛 明治安田生命保険相互会社 秋田支社



協力 JR東日本秋田支社、秋田市立佐竹史料館

「秋田まちなか作戦室」活動記録

発行日 2026年3月21日
企画・編集 NPO法人アーツセンターあきた(藤本悠里子、小野地瞳)
デザイン いしころ合同会社
写真 伊藤靖史(Creative Peg Works) ※p2-3, 8-9, 11, 24-25, 27, 40-42
印刷 株式会社グラフィックネットプリント、秋田市文化創造館

発行

NPO法人アーツセンターあきた(秋田市文化創造館内)
〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町3-16
電話：018-893-6424
メール：park@artscenter-akita.jp
WEBサイト：https://akitacc.jp/event-project/park2025_0905/

※ 本事業は、秋田市「文化創造プロジェクト」の一環として実施しています。秋田市では「文化創造プロジェクト」を通して、市民による様々な活動や、人と人とのつながりを創出するなど、文化を切り口に将来のまちづくりを見据えたソフト事業やネットワークづくりに取り組んでいます。